

市長年頭あいさつ ～ひと・まちが輝く 未来創造・港湾都市 MAIZURUを目指す～



舞鶴市長
多々見 良三

あけましておめでとうございます。
皆さまにおかれましては、清々しく希望に満ちた「新春」をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

明治150年を迎えた昨年は、改めて明治期を振り返ると同時に、先人から引き継いできた舞鶴の魅力を再発見する取り組みに注力してきました。

「交流人口300万人・経済人口10万人都市 舞鶴」を政策目標に掲げ、本市ならではのまちの魅力を磨き、全国、海外の人からも注目していただけるような施策を計画的に進め、その成果として、平成23年に約153万人だった交流人口は、平成29年には約283万人まで急増し、経済人口も約9万8,500人となりました。

また、市役所の運営については、公共施設マネジメントや、債権管理の適正化、人事評価制度の導入、受益者負担の適正化など、市民ニーズや社会情勢の変化に対応するための行財政改革を鋭意進めてきたところです。

本年は、「平成」から元号が変わり新たな時代が幕開けます。本市においても「第7期舞鶴市総合計画」のスタートを切る年です。

私は、「地方創生の原点」は、市民がこのまちに愛着と誇りを持つことが最も大切だと思っています。このまちで生まれた子ども達が、豊かな自然、文化、歴史を知ること、このまちを好きになり住み続けたいと思えるまちにしたいと思っています。

4月からスタートする総合計画では、市民と行政が、ともに「ひとづくり」「まちづくり」に取り組み「未来を拓くまち」を、また日本海側における拠点としての重要な使命・役割を将来も果たす「国際交流・港湾都市」であり続けるために「ひと・まちが輝く 未来創造・港湾都市 MAIZURU」を都市像に掲げてまいります。

また、まちづくりの基本理念を「次代を担う子どもたちに夢と希望をお年寄りには感謝を」とし、将来、

まちの担い手となる若者や子どもたちの郷土愛を育み、夢や希望を持ち、その夢を叶えることができるまち、そして、このまちを築きあげてこられた世代の皆さまには、敬意と感謝を表し、知恵と経験を活かして、生きがいをもって地域で活躍し続けることのできるまちを目指してまいります。

全国的に、東京一極集中、地方都市の人口減少が課題となっている中で、本市の目指すべき「将来のまちの姿」として、昔のように人と人とのつながりを大切にしながら、都会にはない豊かな自然、文化、歴史に触れることができ、一方で今後、さまざまな分野で普及すると言われていたAI（人工知能）やICT（情報通信技術）といった先端技術の導入を積極的に行い、市民が「便利な田舎暮らしができるまち」を実現していきたいと考えています。

まちの主役である市民や事業者の皆さまが、さらに活躍していただくことのできる「市民（事業所）が元気なまち」を目指すとともに、各界各層との連携や、本市のまちづくりを応援していただける企業等との連携、京都府北部5市2町による広域連携を積極的に行い「多様な連携のもと、持てる資源を効果的に活用するまち」を目指してまいります。

こうしたまちづくりを実現する中で、このまちで「生まれ」「育ち」「学び」「働く」サイクルを強化し「住んでみたいまち、住み続けたいまち」にしていきたいと考えています。

この節目となる新たな年を迎え、これまで取り組んできた成果を最大限に生かし、さらに未来へ繋げ、飛躍し、先人から引き継いできたこの素晴らしい舞鶴を50年、100年先の未来においても輝き続けるまちにしていきたいと考えておりますので、本年も変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、市民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。